

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000310
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団
事業所名	シオンの園川上
所在地	佐賀市大和町大字川上587番地1 (電話) 0952-64-8833

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年12月21日	評価確定日	平成 20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年11月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	4 人, 非常勤 2人, 常勤換 4.8人

(2)建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~30,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2		5 名		
要介護3		要介護4		2 名		
要介護5		要支援2			名	
年齢	平均	84 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中西内科	栗林歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大和町川上峡の近く、庭園付きの民家の跡に約2年前に新築されている。庭には松などの樹木が茂り、裏の畑には数々の果樹の木や季節の野菜を作れる畑がある。ホームの中は天井が高く、広がりを感じる空間になっている。共有スペースには、入居者が利用できる対面式のキッチンが設置されており、いつでも外に出られるようにウッドデッキが作られている。「毎日気持ちよく過ごしていただく。」をモットーに、入居者にゆったりとした時間を提供しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価内容は、職員で共有し、緊急マニュアル作成や居室の雰囲気作りを行い、職員全員で改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者を含む全員で検討会を開いて取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの行事や、入居者の日々の暮らしぶりが報告されている。議事録はスタッフ全員で回覧し、職員が情報を共有することでサービスの質の向上に努めているが、グループホームシオンの園川上として、行政との連携をホーム独自で図っていくことを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は入居者、家族とコミュニケーションを図ることで、何でも相談してもらえるような雰囲気作りをしている。玄関に苦情箱を設置し、本人、家族の要望はいつでも関係者で協議し、対応する仕組みが整っている。また、法人で発足している第三者による苦情解決委員会を活用するなど外部者へ意見を表す機会も設けられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩のときにごみ拾いをしたり、踊りの会や夏の花火大会にはホームを開放して、地元の人々と交流することに努めている。地域活動への参加については、積極的な考えを持っているが、老人クラブへの参加を断られた経緯があり、まずホームを知ってもらうために、外部の人を積極的に受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体施設の法人の理念については、職員間で共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。ホームでも「毎日気持ちよく過ごして頂く。」をモットーとして残存機能を高め、日常生活動作の機能低下を防ぐ取り組みを、職員全員で実践している。	○	「毎日気持ちよく過ごして頂く。」をモットーとして、職員全員で取り組みが行われているが、地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映したホーム独自の理念について今後取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体施設の法人の理念については、月1回開く部会で職員間で共有し、理念の実践に向けたケアに努めている。	○	ホーム独自の理念を作り、その理念の共有と実践に向けて取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際にごみ拾いをしたり、踊りの会や夏の花火大会にはホームを開放して、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価に基づき、緊急マニュアル作成や居室の雰囲気作りを行い、職員全員で改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの行事や、入居者の日々の暮らしぶりが報告されている。議事録は、玄関に置かれ面会に来た家族に見てもらえるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体施設が行政との交流をしており、そこから行政の情報が入る。グループホームシオンの園川上としては、運営推進会議の場での連携となっている。	○	グループホームシオンの園川上として、行政との連携をホーム独自で図っていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、入居者の健康状態や金銭管理の報告、相談を行っている。入居者の暮らしぶりについては、玄関のウエルカムボードに外出や生活の様子の写真を掲示し、家族に見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情箱が設置されている。また、入居者、家族とは常にコミュニケーションをとり、要望があればいつでも関係者で協議し対応している。また、法人で発足している第三者による苦情解決委員会を活用するなど外部者へ意見を表す機会も設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員異動は、最小限に留める配慮がされている。入居者が馴染まれるように、スタッフを担当制にし、玄関に職員の顔写真を掲示してある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修や職員研修に積極的に取り組んでいる。研修後は勉強会や報告会を実施し、研修の内容が他の職員にも伝達できる機会が設けられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームとの交流をおこない、サービスの質の向上に努めている。しかし、他法人の事業者との交流や連携はまだ行われていない。	○	法人外の同業者との交流を通じて、よりいっそうのサービスの質の向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、家族等より本人の状態を聞き取り、見学をしてもらっている。また入居者が不安にならないように、家族との連携を図り、不安を和らげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事活動や入浴等を通して、入居者と職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係をつくり、入居者と職員の信頼関係を壊さないように努めている。言葉での理解が難しい入居者に対しては、表情や様子から本人の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のケア状況は、一ヶ月ごとにまとめられており、本人、家族の意見を取り入れて、介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的カンファレンスや部会、サービス担当者会議で検討され見直されている。特別な変化があれば、そのつど検討が行われ、入居者に適したサービスを提供するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や買い物のための外出等、入居者や家族の状況に合わせた柔軟なサービスを提供する体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はいるが、ほとんどの入居者が、入居前の病院とのかかわりを続けており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と連携を取って、ターミナルケアを行う予定である。入居者、家族の望む最期を迎えてもらうよう、家族と共に力をあわせてケアしていく姿勢で臨んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	いきなり声をかけないことや、視線の高さを合わせて話しをすることをスタッフ間で共有している。入浴等の支援については、プライバシーの確保に配慮している。また、個人情報については、保管場所を決めて管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて食事時間を考慮し、希望者には飲酒も楽しんでもらっている。入居者の昔の仕事をいかした作業や趣味などを考慮して支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて、入居者と職員は一緒になって調理や配膳、片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に合わせて入浴を行っている。自分で出来る人は、見守り入浴をしている。暗くなってからの入浴対応については、職員配置も含めて検討されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの能力に合わせて、役割を持ってもらっている。入居者の趣味や嗜好に配慮して楽しみごとの支援を行っている。	○	入居者一人ひとりの残存機能を生かし、役割や活動を通じて生きがいを持てるよう更なる取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回は外食を行い、散歩や近所への外出の機会を多くするように、配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をしなくて開放しており、玄関やベランダから自由に外に出ることができ、開放的な空間を提供している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時は火災報知機、消火器で対応し、民生委員や近隣の消防署へ協力依頼をしている。非常災害マニュアルを整備し、年2回避難訓練を計画しているが、夜勤者を含めた火災訓練が十分に行われていない。	○	民生委員や近隣の消防署の協力を得て、計画されている避難訓練の定期的な実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの健康管理表を作成し、血圧や食事、水分補給等について毎日チェックされ、入居者一人ひとりの状態に合わせた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは明るく日当たりがよく、玄関や壁には季節を感じる装飾がされている。トイレは3カ所設置されていて、不快な臭いも無い。また、床の素材にも配慮され、倒れても衝撃を和らげるクッション性のある床となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が落ち着かれるように、なるべく入居前に使用していた物を持ってきてもらうようしている。また、居室は、希望や状況により畳を利用するなど、入居者が心地よく過ごせるような配慮がされている。		